

私の詩



郡山市立郡山第六中学校

川名 めい

勝負

大きなたつぼみが言いました  
わたしの方が早そうね  
小さなたつぼみが言いました  
いやいやわたしも負けません  
大きなたつぼみと小さなたつぼみ  
今か今かと待ちました  
暖かい陽の差す春の日を  
今か今かと待ちました

やがて春が訪れて  
大きなたつぼみが勝ちました  
大きなたつぼみは喜んで  
小さなたつぼみはしょげました  
ではでは小さなたつぼみには

聞いた意味はなかったか  
いえいえ小さなたつぼみにも  
美しい花が咲きました

またね

気をつけてって何だろう  
なんだかピンと来なかった  
言われなくてもそうするし  
心なくうんと答えてた  
暗い路地には入らない  
危ない車に近づかない  
家まで帰ってくるなんて  
当たり前だと思ってた  
でも  
気をつけてって何なのか  
大きくなって分かったよ  
人は突然いなくなる  
明日も会えるか分からない  
今となりにいれるのは  
まったく奇跡だったんだ  
ああ  
私もいつの日か  
心から誰かを見送りたい

## ひとり

みんな話しているときは  
安心したいだけなんだ  
自分は多数派なんだって  
確認したいだけなんだ  
なるべく分かる話題とか  
気の乗る話をえらんで  
でないと輪には入れずに  
さびしくなると知っている  
さびしい思いをしたあとは  
周りをそつと見てみよう  
もしもひとりの子がいたら  
一緒に笑ってみたいから  
そしてその子に言ってみる  
「君はひとりぼっちなんかじゃない。」

## 親友

自分の気持ちにうそついて  
作り笑いもしなくていい  
魅力的だと見せるため  
何度も修正した過去を  
話すこともしなくていい  
辛くて落ち込んでいるのか  
落ちて込んでいるから辛いのか

無理に話さなくてもいい

説明しなくても理解してもらえて  
理解してもらえらるから慰められる

親友だからできること

## まる

地球がぐるぐる回って  
そしたらみんなの目が回って  
大切な人とぶつかってしまっ  
きつと、それは  
ぶつかつた先の答えを  
見つけ出すため

地球のカタチはまる  
ばつでも  
さんかくでも  
しかくでもなくて  
地球のカタチはまる

神様は  
誰も端っこで泣かないように  
地球をまるにしたんだな

### 《作品の意図》

1篇「勝負」…努力の大切さ、無駄な努力はないということを書きました。

2篇「またね」…「またね」軽い響きのこの言葉の深い意味をまとめました。

3篇「ひとり」…他人に対する優しさについて書きました。

4篇「親友」…自分の『親友』へ対する気持ちを素直に書きました。

5篇「まる」…ポーツとしての時にふいに「なぜ地球は丸なんだろう？」と思いついた結果をまとめました。

### 《作品の寸評》

前半の三篇は、七五調になっていて、読んでいるうちに心地よいリズムが感じられてくる作品である。特徴的なのは「勝負」という作品で、三つの連で構成されているが、ストーリー性が感じられ、童謡詩人の作品を彷彿とさせる。「勝負」と「ひとり」に共通しているテーマは、小さな花やひとりぼっちなど、弱い存在に視点を持ち、光を当てる筆者の細やかなまなざしであろう。

「まる」という詩にも、その想いが共通しており、地球が丸いのに意味があり、「神様は 誰も端っこで泣かないように 地球をまるにしたんだな」と表現する。

このような大きな普遍的なテーマや事象は、詩という形でこそ表し、伝えられるのだと思わせられる五篇である。川名さんの表現の特徴や個性を失わないまま、様々な詩人たちの詩にも触れ、読み味わって今後も素敵な詩を書き続けて欲しいと願う。

(審査員／吉井美香)